

3) 学生会

・工学部学生会の活動状況

2004年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部(学士課程)の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2011年度の工学部学生会は各学科代表19名で構成され、会長には竹田雄太(工学部情報電気電子工学科3年)、副会長には大山絢佳(工学部建築学科4年)、会計に村本恭平(自然科学研究科博士前期課程機械システム工学専攻)、書記に山根和明(工学部建築学科4年)と水城絵里奈(工学部数理工学科3年)がそれぞれ選出された。

工学部学生会では工学部学生会室を拠点として定期的に学生会会議を行い、工学部学生会の運営方針や各学科の学生会の現状と問題点、今後の工学部学生会の活動内容などについて意見交換を行なっている。また、工学部運動会の運営や留学生との交流会などの自主的な活動を行っている。また、秋季に開催される工学部長と学生代表の懇談会では工学部の学生を代表して意見や要望を述べ、学生会長と副会長はさらに学長と学生代表の懇談会にも出席している。また2010年度から実施しているマナーアップキャンペーンも継続しており、6月と1月の2回行っている。

前年度の学生会の話し合いにおいて、「他大学での学生会の活動状況を知りたい」という意見があり、そこで独特な活動をしている岡山大学で、平成23年3月16日に学生会代表7名と教員2名(安藤、葛西)で研修を行った。岡山大学では、学生と教員による委員会が組織化され、「学生交流」、「システム改善」、「授業改善」の3つの活動が積極的に行われており、活動内容や組織構成などが多いに参考になったと言える。なお岡山大学では、他大学の学生との交流イベントを例年実施しており、本学学生会それに参加することを検討した。しかし当該イベントが、工学部運動会の時期と近く、その参加は次年度以降に検討することとなった。

・学生会主催による復活第四回運動会

1952年10月26日に工学部グラウンドで新制大学の第1回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず1999年の第47回運動会を最後に工学部運動会が中止された。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援してきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007年には運動会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は200名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。そこで学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第一回工学部運動会を2008年10月25日(土)に開催した。

それ依頼、学生会が中心となり、毎年運動会を開催しており、2011年度は2011年10月9日(日)に、秋晴れの中、武夫原にて第四回工学部運動会を開催した。

運動会の名物である応援団の演舞も前年は社会環境工学科およびマテリアル工学科だけであったが、本年度から情報電気電子工学科も加わり、合計3学科で披露された。日頃あまり声を出すことが少ない学生も、運動会では学科毎に一丸となって競い合い、工学部学生の重要なイベントとして盛り上がっていると言える。今年度の結果は、優勝は物質生命化学科であり、以下、マテリアル、社会環境、機械システム、建築、数理、情報電気電子の順であった。

ただ一部の学科を除くと、学部4年生および大学院生の参加が中心で、1～3年生の参加が非常に少ないのが現状である。このイベントは、学科やクラスのまとめり、先輩後輩との交流として重要なものと考えられるの

で、より多くの学生を参加させるようにする事が必要であると考えられる。

・学部長と学生代表の懇談会

2011年11月8日(金)18:00-20:00 工学部1号館 2F共用会議室 Bにおいて、学生会と工学部長との懇談会を実施した。学生側から各学科学生会代表13名、工学部側から工学部長、両副学部長、教務委員長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、教務企画係長、教務企画係員計14名が参加した。

教育・学生支援・施設等について各学科の学生会代表から出された様々な要望・提案は「駐輪場」、「設備」、「環境」、「その他」に分類し、懇談会でその項目ごとに検討が行われた。各項目については、必要に応じて学生代表から補足説明がなされ、工学部長、副工学部長、各教職員から回答やコメントが述べられた。学科・学部レベルで対応可能な事項については速やかに検討を開始し、全学レベルの問題については学長との懇談会において要望することとなった。主な意見としては、駐車/駐輪スペースの確保と配置、喫煙所やゴミ箱の設置などの環境の改善、およびコピー機やプリンタの設置、自習場所の確保などの学習環境についての意見があった。いずれの項目についても、十分な話し合いがなされ、工学部の質の向上に対して、教員と学生とが互いの問題意識を共有することができた。

また学生会より、次年度の活動方針として、学生会に複数の学年を参加させるような仕組みを作ること、また次年度も、マナーアップキャンペーン、工学部運動会、エコキャップ活動を実施する旨説明があった。